

かたらい

第89号

平成29年1月1日

発行 社会福祉人 とちぎ健康福祉協会

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1

TEL (028) 622-2846

FAX (028) 621-1422

【U R L】 <http://www.kenkoufukushi.com>

【E-mail】 kenkoufukushi@arion.ocn.ne.jp



スキー教室（わかくさ）

年頭にあたって



理事長
平野 博章

新年あけましておめでとうございます。協会職員の皆様には、健やかに新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、今年は「酉年」。辞典によれば、「酉」の本来の読みは「ゆう」。酒などを入れるための底が尖った壺を描いた象形文字で、収穫した作物から酒を抽出する意味があるなど、果実が成熟した状態を表しているようです。このため、物事が頂点まで極まった状態になるのが「酉年」と言われています。

こうした干支の廻りの今年、社会福祉法人制度改革が本格実施されます。当協会は、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化などに積極的に取り組むことにより、県民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する社会福祉法人として、今後より一層発展していくことが求められます。

「酉年」にあやかって、大きな成果が得られますよう、職員の皆様とともに、大いに奮起して業務を推進して参りますので、特段のご協力をお願いいたします。

施設の整備については、清風園の改築が順調に進み、次はいよいよ、桜ふれあいの郷の建替えとなります。利用者の方々をはじめ、全ての皆様にとって素晴らしい施設となりますよう、英知を結集して参りましょう。結びに、平成二十九年が皆様にとりまして、また当協会にとっても、素晴らしい一年となりますよう、ご祈念とご期待を申し上げます。

行事あれこれ

ねりんピック長崎二〇一六に参加して

事業企画課

「第二十九回全国健康福祉祭ながさき大会」(愛称ねりんピック長崎二〇一六)が、長崎県内十五市町で開催されました。

今までの大会とは一味違う長崎大会は、対馬・壱岐・五島列島など、日本一を誇る九百七十一もの島嶼があるその特徴ある地勢を活かした大会となり、栃木県選手団は、長崎市内を含む本島種目と五島列島の剣道種目に参加しました。

会期となった平成二十八年十月十五日(土)～十八日(火)の四日間は、小雨が降りぐずついたりしましたが、概ね天候に恵まれ、活気溢れる大会となりました。

栃木県からは、五月に開催された「ねりんピックとちぎ二〇一六」の成績優秀者の中から、二十種目百四十九名を派遣し、美術展には絵画、工芸など十二点の優秀作品を出展しました。

十月十五日(土)に長崎県立総合運動公園で行われた総合開会式 入場行進



総合開会式 入場行進

れた総合開会式では、長崎大会に向けて日々の練習や鍛錬を積んだ選手達が、はやる気持ちを抑えきれない面持ちで元氣よく入場行進を行いました。



長崎がんばらんばキッズとの交流

「長崎がんばらんばキッズ」との触れ合いでは、心温まる応援をいただき、栃木県選手団からはたくさんの笑顔がこぼれました。

十月十六日(日)～十月十七日(月)にかけて行われた各種目交流大会では、残念ながら雨により初日中止となってしまうソフトボール以外は日程通りの開催となり、マラソン交流大会では、七十五歳を迎えた鳥取選手が男子十kmマラソンで堂々の第一位となりました。また、水泳交流大会では、多くの栃木県選手が優勝・準優勝を勝ち取るなど、大いに実力を発揮しました。

美術展においては、書と写真の部で見事銀賞を受賞する好成績を収めました。

今年度の全国健康福祉祭は、遠い九州の長崎県での開催となりましたが、各市町の心温まるおもてなしや歓迎を受け、今後とも地域・世代を超えた人との繋がりを大切にしていき、「ねりんピック」を通して、生きがいを持った高齢者の活躍の場を広げていきたいと、改めて思いました。

第三十七回 桜ふれあいの郷まつり

桜ふれあいの郷

十月十六日、待ちに待った日がやってきました。

模擬店やバザーでの買い物を楽しみにしていた利用者の皆さん、この日のためにカラオケやダンスの練習に励んできた利用者の皆さん、家族と一緒に過ごせる時間を心待ちにしていた利用者の皆さん、それぞれが思い思いに楽しい時を過ごせたことでしょう。その証拠に、あちらこちらに笑顔の花がたくさん咲いていました。

模擬店では、新しいメニューを取り入れて皆さんの舌を飽きさせないよう力を入れました。今回はコロケやお好み焼き、アイスクリームなどが加わりました。お味の方はいかがだったでしょうか。

バラエティーショーでは、喜連川公方太鼓、熟田小学校のよさこい踊り等の力強い演目からスタートすると、会場の皆さんもステージに釘付けです。

カラオケでは、キュートなダンスを披露してくれた児童課の皆さんをはじめ、気持ちよくマイクを握る利用者の皆さんが舞台を盛り上げてくれました。そして、クライマックスは、恒例の『二人のビックショー』です。大原順子さんの歌声と着物姿にうっとりさせられ、よっぴさんの見事なもののまねに度肝を抜かれ、ステージ周辺には、夢中になって体全体で楽しさを表現している利用

者さんの姿が見られ、会場が一体感に包まれていました。拍手喝さいのなか、郷まつりは無事に終えることができました。

郷まつり開催に当たっては、たくさんの皆様からの多大な協力を頂くことで、これまで継続してこられたのだと思っています。利用者のご家族の皆様、ボランティアをはじめとする地域の皆様、そして出演者の皆様にご心より感謝を申し上げます。

そして、来年もまた、趣向を凝らした盛大な郷まつりを開催できるように、スタッフ一同で力を合わせていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

郷まつりを終えた利用者の皆さんには、それぞれ幸せそうな笑顔が見られました。家族や親しい人たちのふれあいの場面を思い出していたのかもしれません。すでに来年の郷まつりを心待ちにしている利用者さんもあるのかもしれない。

来年の郷まつりをどうぞ、ご期待ください！



栃木県障害者文化祭

〜カルフルとちぎ二〇一六
こころの集い〜

桜ふれあいの郷

待ちに待った障害者文化祭。当日は生憎の曇天となりましたが、利用者の皆さんはみな期待に胸を躍らせ、晴れやかな笑顔の参加となりました。

到着は開会後間もない午前十時。すでに多くの模擬店が立ち並び、大勢の人出もあり、期待は益々高まります。

利用者の皆さんは職員の付き添いの下、思い思いの模擬店を巡り、また、展示物をじっくりと見学していました。特に、就労支援施設に在籍し、普段から自分の仕事を持たれている方々が多いということもあってか、手工品や創作物に熱心に見入っている姿が見受けられました。「凄いね」「これはなかなか難しいね」などと感嘆の声を上げ、また、手作りの雑貨などを購入し、大いに刺激を受けた様子でした。

昼食後は、皆でスタンプラリーを楽しみ、記念品としてカレンダーを頂くことができました。帰りのバスの中では、手土産を嬉しそうに眺めたり、思い出話に華を咲かせたりといった姿が見られ、大いに満足された様子でした。

大変有意義な時間となり、明日への活力を得られた一日となりました。



第十三回栃木県 障害者スポーツ大会

清風園

九月二十五日(日)、栃木県総合運動公園にて「第十三回栃木県障害者スポーツ大会」が開催されました。清風園からは総勢十二名の利用者が参加し、メダル獲得に向けて意欲をみせていました。

大会当日は朝から雲ひとつない晴天に恵まれ、参加する利用者全員が喜んでいました。

清風園は施設の建替え工事のため、さくら市総合運動公園内のさくらスタジアムを借りて練習を行い本番を迎えました。本番では力を発揮し、練習よりも良い記録を出すことができ、多くの種目でメダルを獲得することが出来ました。

「メダルが獲れたよ」や「楽しかった」と嬉しそうに報告してくれた利用者の皆さんの笑顔は、普段では見た事が無いくらい良い表情でした。また、利用者の顔や腕を見ると、晴天だったため真っ赤に日焼けをしていました。日焼けをした利用者の顔も今年の良い思い出になりました。

「来年も参加したい」や「来年は参加してみようかな」などの利用者の声がありましたので、来年もメダル獲得と利用者の笑顔が見られることを期待したいと思います。



宝木保育園運動会

宝木保育園

十月二日(日)、さわやかな秋空の下、宝木保育園の運動会が開催されました。年長組の開会の挨拶から始まり、競技がスタートしました。

乳児組の親子競技では、子どもたちがかわいらしいマリオに変身してゴールで待つピーチ姫のもとへと急ぎます。途中でクッパが待ち構えていて会場は大盛り上がりでした。

一歳、二歳児クラスの子どもたちは、かけっこに挑戦しました。どの子も一生懸命に走る姿に大きな拍手が送られました。

プログラムは進み、年少組のかわいくて元気な「エビカニクス」、年中組のステッキを使ったダンス「あいうえおんがく」、そして年長組の布を使った力強いダンス「VICTORY」と体全体で表現するプログラムが続きます。

ラストの年長組によるリレーでは、大接戦で表彰式では涙する子もあり、その頑張り強い気持ちに見ている方も胸が熱くなりました。

運動会当日まで毎日練習に取り組んできた子どもたち。行事を終えてさらに成長していくことでしょう。

日々の保育の中で、担任や子ども同士、保育士をあっという間に驚かせてくれるような出来事が展開されていきます。常に子どもたちにとってより良い保育とは何か考えつつ、職員一同力を合わせて、今日も精一杯子どもたちに向き合っていきます。

那珂川苑&那珂川グリーンヒル ふれあい祭

那珂川苑

隣接する那珂川町営キャンプ場の那珂川グリーンヒルと共催で第三回ふれあい祭を九月十一日(日)に小川総合福祉センターあじさいホールにおいて開催しました。

「まほろば太鼓」がオーブニングを飾り、主催者挨拶、郷土の民話「まほろばがたり」と続き、そして、那珂川苑のPRを行いました。

メインの「雷様剣士ダイジ」のミニステージではダイジと地元の保育園児と一緒にフリリダンスを踊り、大いに会場を盛り上げました。

その他、ナイチュウ、とちまるくん、なかちゃん、のゆるキャラとのふれあいタイムも好評で、子どもたちはもとより保護者も大喜びの一日でした。

会場の外では、野菜やお餅、ホンモロコ、天ぷらなど町の特産品の模擬店、また、桜ふれあいの郷のクッキーや花苗、清風園の草木染めのストールや手提袋などの商品の販売も行いました。

また来年も趣向を凝らして開催したいと思います。

那珂川苑&那珂川グリーンヒル ふれあい祭

